

[005]南鮮演習林植物調査

初島, 住彦
九州帝国大学助手

<https://doi.org/10.15017/14204>

出版情報 : 九州帝国大学農学部演習林報告. 5, pp.1-281, 1934-03. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :

Polygonatum inflatum var. rotundifolium *Hatusima* マルバミドリヤウラク

Orchis cyclochila var. albiflora *Hatusima* シロバナカモメラン

〔註〕 横線の植物は智異山彙の特産なり。

(三) 演習林に於ける森林植生概説並に森林群叢

山麓地方は多年濫伐の結果林地は極度に荒廢しアカマツ、クヌギ等散生し固有の林相を見ること困難なるも寺領の山林には保護區域多く、濫伐の厄を免かれ尙固有の林相を呈する所あり。今一例として海拔約 400 米なる大源寺の谷に就きてその植生を述べん。

喬木としてはシデ類（イヌシデ、アカシデ、オホイヌシデ）、ナラ類（アベマキ、コナラ、オホバコナラ）等最も多くエゾエノキ、テウセンヤマザクラ、ケヤキ、クリ、ケヤマハンノキ、ノグルミ、テウセンハウチハ、マルバアヲダモ等混生し之等の下部にはサハフタギ、ダンカウバイ（多）、コバノガマズミ、ミヤマコバノガマズミ、オホヤマレンゲ、オホバカナクギノキ、シラキ、カウヤミヅキ、エゴノキ、ハクウンボク、サンセウ、テウセンキハギ等の亞喬木、灌木散生し更に之等の下部にはヤブレガサ、コゴメタデ、ケマンサウ、クサノワウ、ツルキケマン、ヤマブキサウ、ヤブジラミ、キンミヅヒキ、フブキシヨウマ、ウスギトリカブト、シギンカラマツ、コマスマレ、ナンテンハギ、レンリエンドウ、モミヂハグマ、ヒゴクサ、マスクサ、タガネサウ、ケタガネサウ、ミドリヤウラク、テウセンナルコユリ、カノコサウ、チゴユリ、オホチゴユリ、タツノヒゲ、タチシホデ、アシボソ、チヂミザサ、クサタチバナ、ウマノミツバ、エゾノタチツボスマレ、アカネスマレ、ケマルバスマレ、オホチダケサシ、オホキヌタサウ、ヘビイチゴ、ヤマゴバウ、ジフモンジシダ、ホソバノイタチシダ、クマワラビ、ハリガネワラビ、ホソバシケシダ、イヌワラビ、カウライイヌワラビ、トラノヲシダ等の多年性の草本多く之等の間にはボタンヅル、イチリンザキボタンヅル、オホボタンヅル、アケビ、アヲツヅラフヂ、イハウメヅル、ツルウメモドキ、オホツルウメモドキ、ノブダウ、サンカクヅル、ウスゲ

エビヅル、ツタ、サルナシ、マタタビ、ヘクソカツラ、スヒカツラ、テウセンカラスウリ、ツルニンジン、シホデ、ナガイモ、モミヂドコロ、アマチヤヅル、アカネ、クズ等の蔓性植物散生す。之等谷間より原野方面に到ればカウライヤナギ、クヌギ、ネムノキ、エノキ等の陽性の喬木も見られオニノヤガラ、コマユリ、アカヒメユリ、ハナハタザホ、ヤマハタザホ、ハタザホ、ヒトヘノシジミバナ、コゴメウツギ、カウライウツギ、ケゲンカイツツジ、テウセンヤマツツジ、テウセンレンゲウ、クロツバラ、アキグミ、エゾクマイチゴ、テリハノイバラ、テウセンキハギ、ミヤマハギ、テリハカヂノキ、ハリグハ、ヲケラ、ミヤコアザミ、テウセンリンダウ、ワラビ、ホソバノキリンサウ、イヌハギ、トモエサウ、オトギリサウ、キセワタ、オホバキセワタ、ヤナギババラモンジン、ヤナギタンボボ、ヤマニガナ、テウセンヤクシサウ、カウヅリナ、トダシバ等多く稍々濕潤なる所にはノハナショウブ、イヌガンソク、タニヘゴ、ゼンマイ、シロネ、ツリフネサウ、ホソヤマアハ、テウセンカメバサウ、コモチマンネングサ、ミゾソバ、コンロンサウ、チダケサシ、ラヘビイチゴ、ヲトコゼリ、イヌゴマ等を見る。

500 米乃至 1100 米内外の地帯はシデ類 (Carpinus)、カヘデ類 (Acer)、シラジ類 (Fraxinus)、カシハ類 (Quercus) よりなり、アカシデ、イヌシデ、サハシデ、ヤチダモ、イタヤカヘデ、マンシウカヘデ、コナラ、アベマキ、モンゴリナラ等最も優勢にして之等の外キハダ、ビロウドキハダ、テウセントネリコ、クマノミヅキ、ミヅキ、ナツツバキ、テウセンハウチハカヘデ、シベリアハンノキ、クリ、エゾヒガン等を混生し之等の下部にはハクウンボク、エゴノキ、ダンカウバイ、ミツバウツギ、クサタチボタン、サハアヂサイ、テウセンキハギ、クロフネツツジ、サハフタギ、オホヤマレンゲ、ツリバナ、コマユミ、マユミ、タンナヤナギ、クロヅル等多く鬱蒼たる森林を形成す。林床植物としてはヘビノネゴザ(多)、オホメシダ、ヲシダ、ミヤマシケシダ、カテンサウ、フシグロ、テウセンヒカゲゼリ、ミツバヒカゲゼリ、ウスバサイシン、ノダケ、コマスマレ、ミツバペンケイサウ、マルカメバヒキオコシ、ミゾホホヅキ、エゾノヒナノウスツボ、オホバヤヘムグラ、ヤマムグラ、メヤブマヲ、ウンゼンマンネングサ、クサノワウバノヤクシサウ、ケマンサウ、オホバカウ

モリ、ヒレアザミ、ミヤマヤブタバコ、ヒヨドリバナ、ヤマスカボ、アヅマガヤ、オホネズミガヤ、クモキリサウ等の浅地下植物の外ナツトウダイ、ハヘドクサウ、アカネ、シデシヤジン、モミヂハグマ、ノコンギク、ヤマヂノギク、ハマベノギク、テウセンヤナギアザミ、ヒゴダイ、エゾアゼスゲ、タガネサウ、キジカクシ、オホチゴユリ等の深地下植物の外蔓性植物としてはツルウメモドキ、テウセンヤマブダウ、サンカクヅル、ヘクソカツラ、サルナシ、マタタビ、ツタ等を見る。

約 1100 米乃至 1200 米附近はテウセンミヅナラ帯への推移帯にしてシデ類、トネリコ類は減少しテウセンミヅナラ優勢となり 1200 米以上にては多く純林を形成する所多し。

元來テウセンミヅナラは本演習林の低部を除く外は各所に分布し上部にてはサイシウモミ、エゾマツ等と混生し一言にして云はば演習林はテウセンミヅナラよりなると稱しても過言にあらざるべし。然れども本樹種の最も良好なる生育をなすは海拔 1200 米以上 1500 米附近迄なり。上部にてはカバ類を多數混生し遂にサイシウモミ群叢に推移するを見る。

テウセンミヅナラ帯は前述の如く殆んど純林状を呈し上部にてはエゾノダケカンバ、アムールシナノキ、テウセンマツ等を混生し下部にてはシベリアハンノキ、テウセンハウチハ等の外ハリギリ、アカマツ等を混生するに過ぎず。灌木層としては峯筋にては種類極めて少なくエゾヤマハギ、テウセンキハギの二者最も普通にして往々歩行困難なる所あり。又場所に依りてはカウライスズタケ密生す。之等の間にはダンカウバイ、ツノハシバミ、サハフタギ、テウセンバイクアウツギ等散生するに過ぎず、水分條件稍々良好なる林内にはタガネサウ、モミヂハグマ、シラネワラビ密生す、更に谷通りに下ればケネコノメサウ、シミヅネコノメサウ、ヤマスカボ、アヅマガヤ、オホネズミガヤ、クモキリサウ、セイタカスズムシ、ルイエフシヨウマ、フブキシヨウマ、ヘビノネゴザ、オホメシダ、ミヤマワラビ、ミヤマベニシダ、レイジンサウ、ルイエフボタン、ミヤマカラマツ、ヤマシヤクヤク、モミヂハグマ、ヤマヂスゲ、タガネサウ、タニガハスゲ、エゾアゼスゲ、カハカミスゲ、ヒロハチンナンシヤウ、タチクルマユリ、クルマバツクバネサウ、ミドリヤウラク、テウセ

ンナルコユリ、エビチヤザサ、ユキザサ、タチシホデ、オホシユロサウ、ササバギンラン、オホバノトンボサウ等多く之等の上部にはオホヤマレンゲ、マンシウハシドイ、ツノハシバミ、バイクアウツギ、サハフタギ、クロヅル、テウセンゴミシ等の灌木及藤本を見る。

本帯中火災の爲原野状に化せる所にはススキ密生するを見る。

1400 米附近より谷通りにはサイシウモミ現はれ 1500 米附近より所謂サイシウモミ帯をなす。本帯はサイシウモミ最も優勢にして上部にてはエゾマツ、エゾノダケカンバ等を混生す。上記樹種の外テウセンマツ、ミヅキ、イチキ等の喬木並にエゾノコリンゴ、エゾノウハミヅザクラ、テウセンミネカヘデ、テウセンアサノハカヘデ、マンシウウリハダ、ウスゲラガラバナ、テウセンハシドイ、コハクウンボク、タンナヤナギ等の亞喬木並にミヤマビヤクシン、コゴメシモツク、ツノハシバミ、オホバメギ、チイサンウツギ、テウセンウツギ、テウセンザリゴミ、テウセンモミチスグリ、オホミヤマバラ、ヒロハツリバナ、イトマユミ、テウセンハリブキ、シロバナシヤクナゲ、ケゲンカイツツジ、クロフネツツジ、コメツツジ、テウセンウスノキ、オホベニウツギ(多)、ベニバナヘウタンボク、カンボク、ヒロハガマズミ等の灌木多く之等の下部にはチイサントリカブト、フブキシヨウマ、ミヤマカラマツ、オホヤマカタバミ、カラキンレイクワ、テウセンタイミンガサ、ホクチアザミ、オホトウヒレン、シラネアザミ、オホバカウモリ、アキノキリンサウ、フオーリガヤ、コハリスゲ、イブキヌカボ、テウセンカサスゲ、ムギスゲ、ハクトウスゲ、ヒカゲシラスゲ、ミヤマイトスゲ、ヤマヌカボシ、テウセンノギラン、サイシウヤマラクキヤウ、ツバメオモト、カタクリ、タチクルマユリ、マヒヅルサウ、オホタケシマラン、カモメラン、シロバナカモメラン、ヘビノネゴザ、ナガバノシラネワラビ、ナンタイシダ、ホソキノデ、オホメシダ、イハクラマゴケ、ホソバタウゲシバ、テウセンマンテマ、ミヤマタニタデ、ミヤマムグラ、シホガマギク、ミネトラノヲ、コツマトリサウ、チシマセンプリ、ツシママ、コナ、フチオトギリ、テウセンイハギク、グンバイナツナ、オホホタルサイコ、ツルキンバイ等多く、水湿地にはケネコノメサウ、ツルネコノメサウ、ハナタネツケバナ、バイケイサウ等見られ、

岩面にはカラキンレイクア、テウセンイハキンバイ、ダイヤモンドサウ、タウウチサウ、チャボツメレンゲ、ケタガネサウ、テウセンイハプキ、サイシウヤマラクキヤウ、テウセンイハギク、イハクラマゴケ等の生育するを見る。蔓性植物は少くミヤマタタビ、マタタビ、キバナハンセウヅル、クロヅル(多)、テウセンツルドクダミ等なり。

本帯の火災により現出せる細石方面の廣大なる原野にはイハノガリヤス最も優勢にして之等の間にはテウセンイハギク多く其他イブキトラノヲ、シヨウジヨウバカマ、エゾノヨロイグサ、マヒヅルサウ、ヤマトキサウ、コメガヤ、チシマセンブリ、ヒメシダ、オホバノトンボサウ、ヤマヌカボ、オホホタルサイコ、オホシユロサウ、タウウチサウ等多く、水邊にはミヤマリュウキンクア、ヲタカラカウ、キ、バイケイサウ、ヤマドリゼンマイ等を見る。

演習林内に於ける森林群叢

演習林内に於ける森林群叢の決定に當りては廣範なる群落統計調査を行ひて後、初めて決定さるべきものにして輕々しく目測により決定すべきものにあらざるも次の四群叢は目測によりても略確定的のものなる故以下各群叢に就き概略を述べん。尙各群叢を構成せる植物に就きては前項植生概説の部に於て詳述せるを以て略することせり。

1. アカマツ群叢
2. シデ類、カヘデ類、ナラ類、シラジ類を主とする群叢
3. テウセンミヅナラ群叢
4. サイシウモミ群叢

1. アカマツ群叢 *Pinus densiflora* Association

本群叢はアカマツ最も優勢にしてクスギ、コナラ等を混生し灌木層にはケゲンカイツツジ、テウセンヤマツツジ、テウセンキハギ等多き型にして南鮮各所の低地に普通に見る型なり。本群叢の大部分は人爲的攪亂の結果生じたる一時的群叢なるを以て自然に放置せば其の地固有の群叢に變化するは勿論なるも朝鮮の如く古來濫伐

の弊著しき地にては進行することなく 稍々安定を保ち 一種の生物的極盛相にあるもの多し。

2. シデ類、カヘデ類、ナラ類、シラジ類を主とする群叢

(*Carpinus Tschonoskii*, *Carpinus laxiflora*, *Quercus serrata*)
(*Acer Mono*, *Acer mandshuricum*, *Fraxinus mandshurica*) Association

本群叢は大約海拔 500 米以上 1100 米附近迄の間に見られシデ類としてはイヌシデ、アカシデ、サハシデ、ナラ類としてはコナラ、カヘデ類としてはイタヤカヘデ、マンシウカヘデ、シラジ類としてはヤチダモ 最も優勢を占め 通常谷間に於て良好なる發達を示す。本群叢の上部限界即ち 1100 米附近にてはコナラに代りテウセンミヅナラ多くテウセンミヅナラ群叢への推移帯を示す。

3. テウセンミヅナラ群叢

Quercus mongolica var. *mandshurica* Association

本群叢は上記群叢の上方に現はれ約 1400 米附近迄上昇す。本群叢はテウセンミヅナラ壓倒的に優勢を占め シベリアハンノキ、アムールシナノキ、テウセンハウチハ等散生するに過ぎず灌木層にてはテウセンキハギ、エゾヤマハギの二種極めて優勢にしてツノハシバミ、サハフタギ等散生するに過ぎず故に本群叢はテウセンミヅナラ—テウセンキハギ、テウセンヤマハギ群叢 (*Quercus mongolica* var. *mandshurica*—*Lespedeza Maximowiczii*, *L. bicolor*) Association と稱せば尙明確なり。本群叢も上部に於ては漸次カバ類を混生すると同時にハギ類の減少するを見る。

4. サイシウモミ群叢

Abies koreana Association

本群叢は上記テウセンミヅナラ群叢の上方に現はれサイシウモミ 最も優勢にして針葉樹としてはエゾマツ、濶葉樹としてはエゾノダケカンバ、テウセンミヅナラを混生する型なり。詳細は植生概説並に植生圖参照。

(四) 分布上注意すべき植物並に新植物

Cornopteris crenulato-serrulata (Makino) Nakai in Tokyo Bot. Mag. XLV.
(1931) p. 95